

オシドリが

“再会”と“出会い”

心温まる2つのストーリー

架け橋

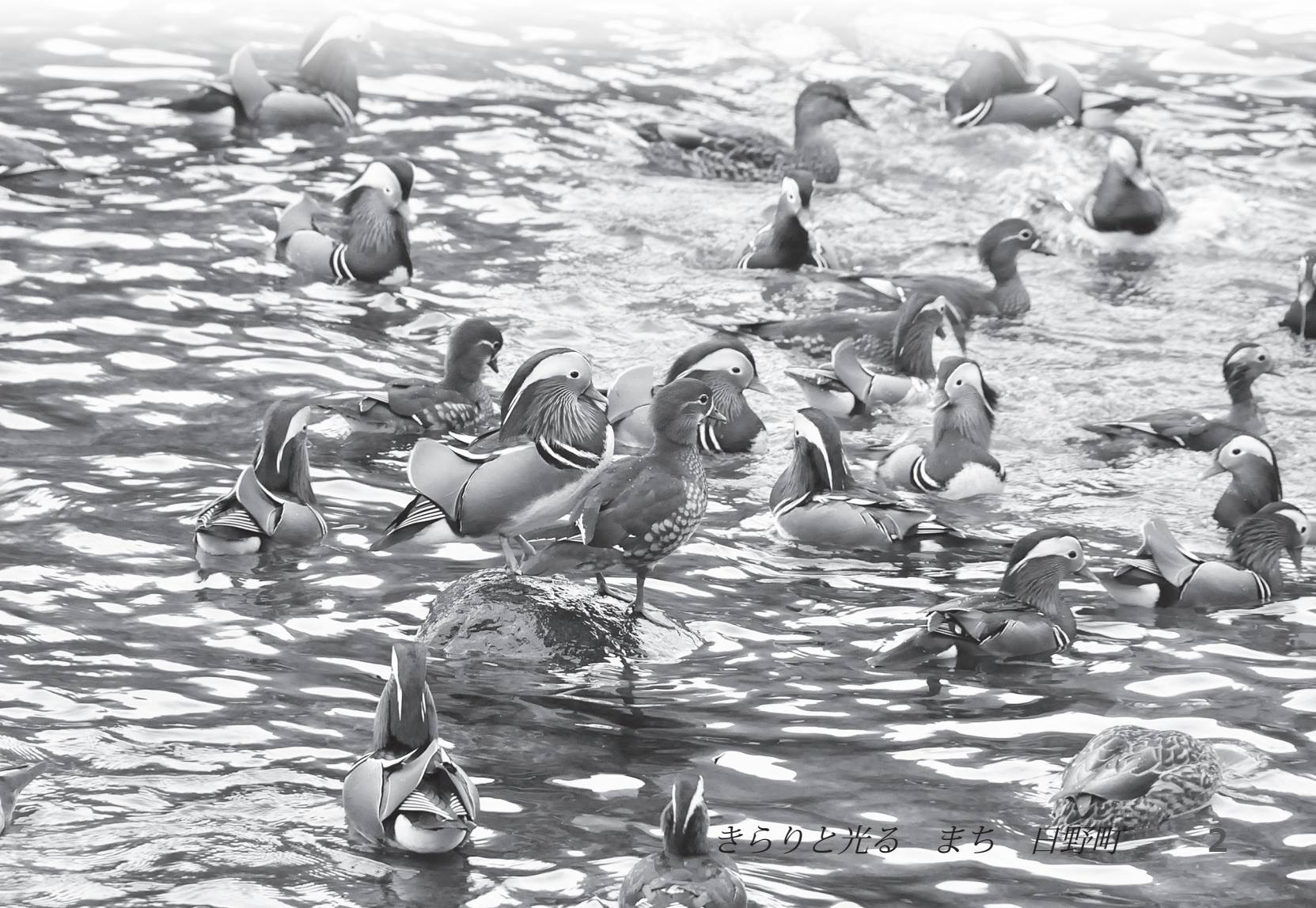
毎年、11月から翌年の3月末にかけて、多くのオシドリが飛来する日野町には、その生態やオレンジ色、紫色など色鮮やかな羽毛に身を飾っている姿に魅了された多くの人が訪れ、オシドリの姿を間近に観察することができる観察小屋では、多くの出会いが生まれています。

東京の子どもたちがドングリを持って訪れる『オシドリ天使』たちと、美しい姿を写真に収めようと県外から訪れた写真家の、心温まるストーリーを紹介します。



▶オシドリの大好物のドングリ

▼日野川に飛来するオシドリ





▶開演前中学生をレッスン



▶思い出を語る上野さん



▶世界を魅了する3人が息の合った演奏を披露



▶笑顔で来場者をお出迎え



▶中学生が花束を贈呈

おかえり、ようきてごしなった。だんだん 上野星矢とパリ音楽院の仲間たちトーク&ミュージック

1月17日、町文化センターで「世界に羽ばたくオシドリ天使 うえのせいや 上野星矢とパリ音楽院の仲間たちトーク&ミュージック」が開かれ、13年前、小学5年生のときオシドリ天使として町を訪れた世界的なフルート奏者・上野星矢さんよしだまことが当時の思い出話などで町民と交流を深めたほか、パリ音楽院の仲間、吉田誠さんましゅう（クラリネット奏者）とロー磨秀さん（ピアノ奏者）との演奏では、世界の人々を魅了した音色を披露しました。

東京杉並の子どもたちが、公園や神社でドングリを拾って日野町に届ける活動がはじまったのは1994（平成6）年。現在も交流が続く、『オシドリ天使』として町を訪れた子どもたちは延べ200人となりました。

演奏会当日は、町内外から多くの人が来場し、会場は満員。オシドリグループなど同イベントを支援した人たちは感激し、笑顔で迎えました。

催しはトークと演奏の二部構成で、一部ではまず、上野さんとローさんが登場し、フルートとピアノの演奏を披露。なかでも馴染み深い『花は咲く』では、ピアノのメロディーに乗せて、フルートの透明感のある音色が会場に響きわたり、来場者はうっとり聞き入りました。

そしてトークでは、上野さんの恩師で、オシドリ天使交流を世話している舟場出身の佐々木幹夫さん（東京在住）と、オシドリグループの森田順子さん、上野さん、吉田さん、ローさんが、13年ぶりの再会や夢などについて語り合いました。

上野さんは「訪れたときは鳥取

西部地震の翌年の3月で、土砂崩れなどを見て回りショックを受けました。今日オシドリを観察し、この町に元気をもたらすのものはオシドリだと思いました」と振り返り、森田さんは目を潤ませながら「オシドリグループが活動して20年目となる記念すべき年に、夢のような演奏会が開かれ奇跡が起きたよう」と話しました。また「上野さんが『ただいま』と言ってくださり、続けてきて良かったと思います」と笑顔を見せました。

そして佐々木さんは「町の皆さまには、オシドリ天使交流活動を支えていただき感謝しています。今回、上野さんに催しの話をする」と演奏の機会を与えてくださってありがたうございます」とすぐ了解してくれ感激しました。町に良い恩返しできました」と喜びを話しました。

二部では、3人が迫力ある演奏を披露。曲が終わるごとに、会場から大きな拍手が贈られたほか、最後の曲『ふるさと』を演奏に合わせ来場者全員で歌い締めくくると、上野さんは「また帰ってきます」と、会場に向けて笑顔でメッセージを送りました。